

小雪牧場、始めます。

大阪府立農芸高等学校 資源動物科 3年 永井 小雪

自分の手で搾り、自分の手で加工販売!これは未来の小雪牧場の姿です。

私は幼い頃、よく親に牧場や動物園など様々の所に連れて行ってもらっていました。そのためか、ずっと動物が好きで、将来動物に関わる仕事がしたい、と自然に思い始め、農芸高校資源動物科に入学しました。

資源動物科では牛、豚、鶏の家畜だけではなく、アルパカ、ポニーをはじめとする愛玩動物も飼育し、扱う動物ごとに専攻が異なります。その中でも牛を扱う酪農専攻では、飼養管理だけではなく、搾った乳で乳製品を作り6次産業化にも取り組んでいます。このことに私は魅力を感じ酪農専攻を選択しました。

酪農専攻では、毎日私たちが子牛の哺乳、育成牛、乾乳牛そして搾乳牛の飼養管理をしています。私の学校生活は朝の7時30分に「おはよう」と牛に声を掛ける所から始まります。どんなに忙しい毎日でも、牛の温かさに触れることで、頑張る力が湧いてきます。

私たちが搾った生乳は乳業会社へ、一部は学校でアイス、チーズ、ヨーグルトなどの製造に利用しています。

年に数回本校で生産した牛乳を、本校ではもちろん、近隣やイベント会場など、様々なところで販売しています。自分で搾った物を商品に加工し、消費者の手に渡したとき、「自分で搾った牛乳!?すごいね」「さっぱりしていておいしい!」と言ってもらえ、私たちの活動が認められた様でとても嬉しい気持ちになりました。この時から、「酪農、そして乳製品の素晴らしさをもっと多くの人に伝えたい」と強く思うようになり、将来牧場経営をする夢ができました。

2年生の終わり、実際の経営を学ぶため京都府にある丹後ジャージー牧場へ研修に行かせていただきました。丹後ジャージー牧場のある久美浜町は、京都府の西北端、兵庫県との県境にあり、豊かな自然に恵まれた久美浜湾と田園風景に囲まれた、風光明媚なところにあります。その自然の中で、約40頭のジャージー種を飼養管理しています。それも、農芸高校のように牛一頭一頭に名前を付け、愛情こめて飼養管理していました。さらに、「牛乳のおいしさを伝えたい」という思いで作った「ミルク工房そら」では、牛を見ながら、アイスクリームやこだわりのチーズを使ったピザを食べることもできます。この牧場はまさに、私の夢とする「酪農、そして乳製品を伝えられる牧場」でした。

私は泊り込みで1週間、搾乳・乳製品の製造などを体験させていただきました。

毎日朝は4時30分に起き、5時から牧場の仕事が始まります。まずは餌やり、6時30分から搾乳が始まり、糞取り、堆肥作りをしました。夕方の仕事は15時からのスタートです。

朝と同じように餌をあげ、搾乳は17時30分から始まります。作業のすべてを終え、家に帰るのは夜の20時頃、これが丹後ジャージー牧場での1日でした。

研修の空き時間、希望していたアイスやチーズなどの乳加工について教えていただきました。その時、私にとって驚きの光景がありました。製造者も直接消費者の方と接していたのです。工房長は「お金も大事やけど、一番に考えているのはお客さんがどうやったら喜んでくれるか。また来たい!って思ってくれるか。」と話してくださいました。牛を育て、乳製品を加工・販売するだけでなく、消費者との関わりを一番に大切にしないといけない、その経営理念を学ぶことができました。

研修を終え私が今できることは何か、と考えたとき、今まで以上に学校での牛の飼育管理、そして加工・販売技術を身に付ける事だと思いました。そこで近隣の洋菓子店と連携し、本校の生乳を使用したプリンを製造しました。

ポスターを作って告知をし、当日はピラ配り、売り込みなどをして2日間でなんと200個を完売することができました。またジェラート専門店に研修に行き18種類ものジェラートを製造して校内で販売をしました。行列ができ、買っていただいた方に「めっちゃおいしかった!」「次いつ売るん?」などのうれしい言葉をたくさん頂き、将来の夢に向かって一步一步近づいていると、実感が湧きました。現在は企業と連携をし、本校の生乳を使ったチーズの商品開発を計画しています。

これらの活動を通して私の目指す酪農経営プランはジャージー種を飼養し、自分で生産・加工・販売をすることです。

一般的にホルスタイン種の年平均乳量は8000kg、ジャージー種は5000kgと言われ、ジャージー種の方が少ないのです。しかし、乳脂率がホルスタイン種では約3.5%に対し、ジャージー種は約5.0%と高く、加工するとより濃厚でおいしい乳製品ができます。また、ジャージー種の方が体は小さく、飼料代はホルスタイン種の約7割になります。乳価を市場商品価格の5割で試算すると、年間でジャージー種の方が粗利益が1.5倍になります。そのため私はホルスタイン種ではなく、ジャージー種で経営したいと考えています。

しかし、経営に当たって課題はたくさんあります。経営の3要素、つまり「土地」「資本」「労働力」です。

「土地」は、私自身非農家で、牧場をする土地を持っているはずありません。また、その購入する資金となると、経営するのに何年かかるかわかりません。そのことを、丹後ジャージー牧場の社長さんに相談しました。すると、「京都に続けれなくなった牧場あるで。その気なら、譲ってもらえるように声かけようか?」と第三者継承の提案をしていただくことができました。非農家である私でも、これからもっと生産、加工、販売の勉強をすることで、将来は牧場を経営できる、と確信を持つことができました。

「資本」は、農業次世代人材投資資金を利用して、経営の軌道を確保します。また人工授精、受精卵移植の資格を取得し、経費削減に努めます。丹後ジャージー牧場の研修中に、獣医さんが来て人工授精、受精卵移植をしてもらっている時、社長は「自分でできたらお金かからんのかなあ」と金銭面での酪農の厳しさを伝えてくれました。そのため私は大学へ進学し、人工授精、受精卵移植の資格を取得します。

「労働力」は、まず家族で経営します。私の夢を話したところ、母は「家族みんな動物が好きやから、みんなで牧場できたらいいな」と言ってくれました。将来の私の夢は家族の夢にもなっています。

大学卒業後、まずは経営技術を身に付けるため、丹後ジャージー牧場に就職します。そして、独立し、第三者継承により牧場経営を始めます。まずは、ジャージー種を10頭規模から、軌道に乗れば規模を拡大し、乳加工の工房を新設。「自分の手で搾り、自分の手で加工・販売」できる牧場に展開します。

また、いつかは大阪での牧場経営に発展させたいと考えています。大阪の都市だからこそ、新鮮な農産物を求めている消費者が多くいます。そして、大阪の子供たちに「酪農、乳製品の素晴らしさ」を伝え、いのちを大切にする、生きることを教える「酪農教育ファーム」にも取り組みたいと考えています。ジャージー種はホルスタイン種よりも耐暑性に優れているため、大阪の気候に向いており、さらに体が小さく、子供により安全と考えられ、都市型酪農に適しています。

まだまだスタートに立ったばかりです。何年かかるか分かりません。

でも、小雪牧場、始めます！